「一般社団法人（非営利）いぶき宿（じゅく）」通信 2019 No. 33③ 2019. 9

「いぶき宿」
http:// ibukijuku.org
野上幸恵

第三部

「NPO 法人わいわいプロジェクト」

広野町綿花畑

雨の降りしきる中、広野町内をバスのなかから視察しました。バスを降りることができなかったことは残念でした。以下の写真は下見に行った時のものです。

広野町は、原発（核）事故の前日、津波で破壊されていました。津波減災のために、跡地を防災緑地として整備されていました。そこには７万本の木が植樹され、お花が植えられていました。

広野町の沿岸部に高さ１０・７メートルに嵩上げした県道と防災緑地、海岸沿いの８・７メートルの防潮堤と合わせ、津波被害を軽減する多重防御の役割が期待される。同町を襲った津波は約９メートルとされ、高さ６・２メートルの防潮堤が損壊（ネットより）

塩害に侵された耕作放棄地に土地の荒廃を防ぐ意味も含め、塩害に強い「コットン」栽培がされています。ここで作付けされているのはオーガニックコットン。このコットン畑にも自然の仲間が闇に乗じて訪れた足跡が残されていました。また、広野町には２６０ha の田んぼがあり、そのうち１６０ha が再開されていますが、田んぼアートもつくられていました。

アートは広野町のマスコット、「広坊」です。

「とんぼのめがねは、ま～～るいめがね♪」という童謡をご存知と思います。これは広野町の額田医師が往診に出かけた際に、子どもたちがとんぼと遊んでいた姿を見て作詞したものなのです。それで、広坊はとんぼなのです。

広野町の拠点づくりを目指してのプロジェクトです。広野町は町を復活させるためには次世代の人づくりが大切なので、教育に力を入れ、「広野未来学園」をつくり、生徒の半分は地元から、半分は全国から集まっています。寮も立派な寮が準備され、体育館もスポーツ独自のものが別に準備されています。町として「子ども園」をつくり、民間に委託しています。住民が夢と生き甲斐をもって前を向くことのできる環境づくりに取り組んでおられることを知りました。

また、この学びのために案内をしてくださった代表は、実はあの歴史的な時に第二原発で働いておられた方でした。第二原発の話しはあまり耳にする機会がありませんでした。が、大変だったということは風に乗って伝わってきましたが・・・実際にお話を伺い、危機一髪だったということが分りました。あの時、身の危険を犯して第二原発を冷温停止に持っていってくださった方々に対してどれだけ感謝をしてもし尽くせないと思いました。あの冷温停止に失敗していたら、今頃、私たちはどこにいるのでしょうか？関東全域、人の住むことができない場所になっていたということです。

第二原発についても、もっと事実を伺いたいと思いました。

この後一路、湯本、元禄からの老舗温泉宿「古滝屋」へ。従業員１３０人を抱えるこの老舗旅館も実は震災の大きな影響を受け、大きな被災で廃業を真剣に考えなければならないくらいの所まで追い込まれ、残ってくれた８人の従業員と社長、若女将で、ここまで繋いでくれたご先祖のことを思うと、ここで廃業はできないと踏ん張られたとのことでした。厨房が使用不能な程のダメージを受けたけれども、幸いに温泉の方は大丈夫だったので、取りあえず、素泊まり

で営業をされていました。

そんな中でも、社長さんはこの未曾有の震災で一番困難な状況にいるのは、障害を持っている子どもたちでしょうとの思いから「ふよう土」という団体を立ち上げ、活動をはじめておられたのです。大人が子どものふよう土となって、育てていかなければいけないというコンセプトです。その考えに魅せられて、「いぶき宿」は、この宿で泊めって頂くことにしました。学生ボランティアのためには、建築科の学生たちの設計でプライバシーが保てる、蚕ベット（？）のようなスペースを、使っていない大広間に設置し、低額でボランティア学生に宿泊を提供するということもされていました。今回は夕食を提供してもらえました。厨房が整備されてシェフにも戻ってもらえたのが昨年の１１月、７年半すぎていました。その間のご苦労は計り知れないと思います。

福島特産品を使った夕食。次々と出てくる品々に、満腹なのに、箸が進むおもてなし料理。

いわき教会でのミサ

巡礼のミサをいわきの教会で捧げました。なんと、仙台教区の神学生が来ていました。小笠原神父様に神学校で教えてもらったとか。嬉しいサプライズでした。また、彼自身の震災の体験を分かち合ってもらえたのも嬉しかったです。

いわきオリーブ園

「いわきオリーブプロジェクト」のオリーブ園に行きました。

NPO いわきオリーブプロジェクトが目指すもの

特定非営利活動法人いわきオリーブプロジェクトは、オリーブ研究活動を通して地域や社会福祉への貢献に関する事業を行い、住みよい地域環境作り、地域福祉への理解促進に寄与することを目的(定款、第３条)とし、目的を達成するため次の事業を行う。

①地域農業支援および農業生産事業

②農業体験の企画・運営

③農村地域振興の企画・調査・研究

④就農支援活動

⑤地域の観光名所の情報提供

⑥観光地同士の相互協力や連携、交流の活動

⑦この法人の目的を達成するために必要な事業

（ネットより）

お話を伺い、ボランティアとの連係、子どもたち、地域にも開かれている活動、そして、オリーブを通して日本全国と繋がることを目指しておられることに感銘しました。オリーブ加工品の品々を求めました。はじめて「オリーブ茶」を飲んでみましたが、しっとりと美味しかったです。また、オリーブは雌雄別木であり、雌雄で植えなければ実はできないこと、空気受粉であることも学びました。このオリーブ園には、種類の違うオリーブが植えられていました。

中野区の地域密着タウン情報誌「おこのみっくす」がいわきのオリーブを支援する「オリーブ羽ばたきの会」を立ち上げいわきとの交流を深められ、2016 年４月に中野で「オリーブの祭典」を企画。JR 中野の駅長さん発案の鉄路で繋ぐ「オリーブ列車」が４月 16 日に走りました。この日を記念して９時９分いわき発の常磐列車にはオリーブ特別ヘッドがつけられました。

松戸、上野、東京、新宿、そして中野のそれぞれの駅で駅長さんにオリーブの苗木を贈呈していく交流列車でした。オリーブがいわきと関東を結んだ列車は、これからの繋がりのスタートを切ったオリーブの旅だったのでしょう。

すんなり近隣から受け容れてはもらえない現実の厳しさが、お話の端に感じ取られました。

今回の旅は巡礼の旅。本当にこの巡礼の旅は、３日間で終わるのではなく、これからずっと続いていく旅であると感じています。

感謝をこめて（野上）